



伊藤博文は、明治18年(1885)に第一次伊藤内閣を組織以降、明治25～29年、31年、33年～34年の計4回内閣を組織した後、38年(1905)から韓国統監に就任、42年(1909)に銃弾に倒れました。

明治23年(1890)、小田原十字町に自分の別邸を設け「滄浪閣」と名付けましたが、梅子夫人の療養に考慮して、明治29年(1896)滄浪閣を大磯に移した後、明治30年(1897)10月1日に本籍を東京から大磯に移し、ここを本邸として使用しました。博文没後、養子博邦に継がれ、大正10年(1921)に朝鮮京城府李王職の長官を務めていた李載克に譲渡され、戦後は米軍に接収、軍人の施設として使用されました。

昭和26年(1951)に西武鉄道が購入、昭和29年(1954)から平成19年(2007)まで大磯プリンスホテル別館として「滄浪閣」の名称を残し営業していました。この間に行われた改築などにより当初の状況をとどめているのは洋室棟と和室棟のほか、屋根構造、軸組などのみで、間仕切りや仕上げ材などは変えられましたが、町民からは別荘地大磯のシンボルとして変わらずに認識されています。

所在地 大磯町西小磯 85

建築概要 (旧李王家別邸部分及び増築部分)

- ・構造 木造2階
- ・様式 和館と洋館

建築面積 不明

建築年 大正15年(1926年)

施工 不明

交通 JR大磯駅より徒歩15分

大磯町指定有形文化財(建造物)

※特別な催し以外、非公開

(出典：大磯のすまい(大磯町教育委員会)、写真提供：大磯町)

(2018年9月現在)